

“心を包む日本の文化”を、今に伝える風呂敷

11月17日(木)、大城みゆき先生が道徳の授業を公開しました(2年9組)。本時は『包む』と題し、風呂敷のよさを伝統・文化の観点から見つけて、今後の自身の生活につなげることが目的です(価値項目C 伝統文化)。

みゆき先生のたくさんのイイね！を、パディの垣花美幸先生が紹介します。



図1 風呂敷ってどんなことに使う道具なの？

「**考え、議論する道徳**」において、**「自分事」**として捉え、**多面的・多角的**に考えることを大切に、深い学びとなる授業を目指しましょう

「自我関与が中心の学習」

教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることを通して、道徳的諸価値の理解を深める。

本時の中心発問

「包む」という行為は、人のどんな心が表れているのだろうか？



図2 風呂敷にどうやって包むの？

イイね① 導入場面で日本の伝統や文化にふれることで、**日本人が風呂敷を使う心、「つつしみ」**について考えるという、本時の問い(中心発問)につなげていた(図4)。

イイね② 生徒自身の生活の中に風呂敷があるのか、実際に風呂敷で物を包んでみる活動を通して、風呂敷への関心を高めることができた(図2)。

イイね③ 風呂敷とミニマリズムの共通点について対話し、考えをシェアすることで、「包む」という行為は、人のどんな心が表れているのか、本時のねらいに迫っていた。

Sさんの振り返り 今日のひとつ「風呂敷の良さ」

最近では、とても便利なものが増えすぎて、新しい物をどんどん買ってしまふ風潮がとまらなくなっているかもしれないけど、日本の伝統的な物を使ったりすることによって言葉を使わなくても気持ちや気持ちが伝わるからいい



図3 風呂敷には日本人のどんな心が表れている？



図4 日本人の心と文化(四季折々の日本の住まい、食、文化、伝統芸能)